

垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイ配備に反対する意見書

米海兵隊は、2011年6月17日、普天間飛行場に垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイを2012年10月に12機、さらに2013年10月に12機配備する計画を発表した。

普天間飛行場は、世界一危険な飛行場と言われ、住宅地のど真ん中にある。2004年には、隣接する沖縄国際大学構内に、CH-53大型輸送ヘリが墜落している。同飛行場は移設返還合意を見ているところであり、沖縄県民及び金武町民は基地負担の軽減を強く求めているところである。オスプレイは試作及び初期生産段階で墜落・不時着事故をおこしており、他に空軍仕様のCV-22オスプレイが、2010年4月アフガンにおいて墜落し、米兵が死亡している。

オスプレイの配備は、ヘリパッドが数多く存在するキャンプ・ハンセン訓練場、北部訓練場と連動するのは明らかであり、ますます基地から派生する環境破壊は拡大され容認できない。普天間飛行場へのオスプレイの配備は普天間基地の固定化につながり、負担軽減を強く求める沖縄県民を逆なでするものであり、金武町議会は、オスプレイの配備に強く反対する。

よって、金武町議会は、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成23年6月27日
沖縄県金武町議会

宛 先
内閣総理大臣
外務大臣
防衛大臣
沖縄・北方対策担当大臣

可決

平成 23 年 6 月 27 日
金武町議会議長 仲里全孝